

ID No.	2084
研究課題名	レドックス恒常性破綻に伴う多臓器障害の病態解析
研究代表者	大守 伊織 (岡山大学・教授)
研究組織	
受入教員	真下 知士 (東京大学医科学研究所・教授)
研究分担者	大内田 守 (岡山大学・准教授) 内田 治仁 (岡山大学・教授) 石田 紗恵子 (東京大学医科学研究所・助教) 山内 祐子 (東京大学医科学研究所・学術専門職員)
研究報告書	
	<p>提供されたTxn1遺伝子変異ラットを用いて、以下の実験を行い、研究成果を得た。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Txn1遺伝子変異ラットの神経細胞変性の病態解析 神経変性・神経細胞死がおきるタイミングとてんかん発症が起きるタイミングには数週間のタイムラグがあり、てんかん発症時には、アストロサイトとミクログリアの果たす役割が推測された。メタボローム解析により、神経細胞死発症時には、病変部の微小環境の変化が認められた。 2. 腎病変の病態解 腎機能低下に先立って、近位尿細管のミトコンドリアの形態変化が確認された。 3. 脳・腎病変における酸化ストレス脆弱性と炎症等の関与 脳病変と腎病変のRNA-Seq解析を行った。その結果、脳病変と腎病変に共通の生物学的シグナルパスウェイと、臓器特有の変化を確認することが出来た。